

コーディネータの参画

数値解析技術を利用して地域企業のものづくり技術の高度化を目指す解析支援ネットOKAYAMAは、解析シーズを保有する会員と地域企業の関わりをさらに高めていくため、この度、4名のコーディネータに加わっていただき、企業ニーズなどの情報を提供していただきながら、企業との連携を強化していくこととなりました。また、コーディネータ各位には、解析支援ネットOKAYAMAの活性化に向けて、各種支援を行っていただく予定です。

4名のコーディネータは、多方面で活躍されているため既にご存じかも知れませんが、ここにコーディネータの方々の略歴と活動参加に向けての抱負などを記していただきましたので、ご紹介します。

皆様が、ご存じないことも記されていると思います。是非、ご一読下さい。

東コーディネータ（岡山大学）



民間企業勤務 30 余年の経験を生かして、解析支援ネットのより活性化に尽力したい。

URL : http://www.okayama-u.ac.jp/user/crc/home/soudan/coordinator_azuma.html

[東(アズマ)コーディネータの略歴]

2005 年 6 月 岡山大学コーディネータとして採用
2006 年 4 月 知的財産部門長を兼務。現在に至る。

湯浅コーディネータ（岡山県立大学）



「人間ネットワークはインターネットより強し」をモットーに、産学官の関係者がそれぞれの立場で全力で活動がなされた結果が、WinWin の関係で地域振興に結実することを願ってコーディネート活動を行っていく所存です。

お気軽に、ご相談ください。私がお手伝いできないことは、他学・他組織の研究者やコーディネータを紹介いたします。

[湯浅コーディネータの略歴]

昭和 44 年 4 月 川崎製鉄株式会社（現 J F E スチール）入社 千葉製鉄所配属
厚鋼板製造、材料試験、溶接棒製造の技術管理に従事。
昭和 56 年 1 月 同社 水島製鉄所
溶接ワイヤ製造の技術管理、環境安全、知的財産管理に従事。
平成 9 年 6 月 岡山県産業振興財団 産学官連携支援業務に従事。
平成 17 年 4 月 岡山県立大学 地域共同研究機構 産学官連携コーディネータ

高野コーディネータ(岡山県工業技術センター)



【専門分野】

電子・電気工学、PSA ガス分離

【主たる公的活動】

JIS 原案作成委員 (JIS B9950, JIS B9951)

「圧カスイング吸着装置」(1990年～1991年)

【自己紹介】

平成16年4月1日から岡山県工業技術センターの「マイクロものづくりコーディネータ」として活動しております高野和潔(たかのかずきよ)です。

岡山県における精密生産技術の集積を活かし、産学官連携による技術の高度化、医療・福祉・健康関連分野をはじめとする高度機器等の開発、地域企業群のブランド化、人材育成・技能伝承などによって元気な岡山を創る「マイクロものづくり岡山創成事業」に私の持っている力を注ぎ貢献したいと考えております。

私の経歴の前半20年は日立製作所にて開発部に属し卓上計算機、銀行端末等のコンピュータ関連装置を担当し、後半20年は山陽電子工業(株)にて研究開発部長として放送用機器、福祉機器、医療用酸素濃縮器、体外循環血液浄化装置等の開発と指導に携わり、医療・健康・福祉分野における新商品開発を多く経験してきました。

開発した機器を商品として世に送り出すには、市場性、特許(抵触、出願)、デザイン、原価、生産性など、多くの事を十分に検討しておくことが必要です。加えて医療機器の開発においては、安全性などの厳しい基準(ソフト面、ハード面)をクリアしなければなりません。

せっかくの研究開発が単なる試作で終わるのか、製品化・事業化に発展するのかは、これを行う企業の当事業にかける熱意が最も大切です。この熱意を求めて企業を訪問し、私のこれまでの「ものづくり」経験を活かして積極的応援をいたします。

現在は製品開発競争激化の時代であり開発スピードかが求められております。シミュレーション解析を多用し、試作による評価を必要最小限に抑え、時間と開発費の低減を図ることが大切です。解析ネットをご利用されることをお勧めいたします。

[高野コーディネータの略歴]

昭和39年4月	日立製作所入社 亀戸工場、開発部所属
昭和49年3月	尾張旭工場、銀行端末設計
昭和52年5月	副参事
昭和59年3月	退社
昭和59年3月	山陽電子工業株式会社 入社、研究開発副部長
平成2年11月	取締役研究開発部長・知財部長兼務
平成18年3月	退社
平成16年4月	岡山県工業技術センター、マイクロものづくりコーディネータ

大田コーディネータ(岡山県工業技術センター)



2005年(平成17年4月)から岡山県工業技術センターの「マイクロものづくりコーディネータ」として、産学官連携による技術の高度化・地域企業群のブランド化などを念頭に置きながら、県内各地を動き廻ってきました。

このたび、解析ネットにコーディネータとして参画した機会に、自己紹介をさせていただきます。

【略歴】

1964～1966	株式会社島津製作所 電気炉工場 技術課
1966	三井造船株式会社 入社
1966～1978	千葉造船所 造船設計部 電気艀装設計課および総合設計課
1978～1988	玉野造船所 造船設計部 電気艀装設計課および総合設計課
1988～2000	玉野造船所 水中機器部 (初代部長)
2000～2002	玉野エンジニアリング株式会社 造船設計部 (取締役兼総括部長)
2005～2007	岡山県工業技術センター ミクロものづくりセンター

【経験業務】

- ・島津時代は電気抵抗炉用の配電盤の設計業務に従事しました。
- ・三井の千葉時代は、日本経済の発展と共に船舶が大型化し、タンカー(8～42万ト)・鉱石運搬船(14万ト)の電気艀装設計と内外の対外折衝業務(メーカー・船主・船級協会・政府)などに従事しました。
- ・石油ショック後に玉野へ転勤し、貨物船や特殊船、例えば港湾局・水産学部の調査船などの電気艀装設計と対外折衝業務などに従事しました。
- ・同時に、off-shore分野のドリリング・リグ、2x6000ト型クレーン・バージ、800人乗りホテル・バージなどの海洋構造物の建造に従事しました。これらはメキシコ湾や北海油田で稼働しています。
- ・さらに、新規分野の深海無人探査機器の開発・設計・建造・試験・アフターサービスに従事しました。

代表的なプロジェクトは通産省プロ「極限作業ロボットの海洋ロボット」の製作・実証実験、海洋科学技術センター向けの10000m級無人探査機「かいこう」の開発から引渡後の保守まで、東大生研との共研「自律航行型R-1ロボット」の開発から保守などです。

特に、「かいこう」は納期が1年遅れて内外圧によるストレス高き仕事でしたが、1995年マリアナ海溝で10,911m潜航の世界記録を樹立しました。

【得意分野】

- ・船舶や海洋構造物の電気分野は、発電・給配電・制御からなる動力系、遠隔制御・自動制御・LANなどからなる計装制御系、船内通信系、衛星通信を含む無線通信系、GPS・ジャイロを含む航海装置系、居住関連装置・照明系などから構成されています。
- ・さらに、船体部・機関部の機能の理解と密接な協議が不可欠です。
- ・従って、深くはないが広い知識をもとに、ProjectやSystemをまとめる手法に慣れてしています。
- ・一方、“開発もの”を手掛けた経験から、研究開発の難しさや勘所を理解しているつもりです。

そして、新しい事に取り組む場合に往々にして発生する各部間の相克、工程計画、コストなどの co-ordinationなどを学んできました。

【これから取り組みたいこと】

- ミクロものづくりコーディネータの立場にて、大学や県内企業を訪問する機会が多く、これまで、産学官連携による「ものづくり」をささやかながら支援してきました。
その経験から大胆に私感を述べさせていただくと、一流の製造能力と比較して多くの企業では設計・品質保証部門がやや弱体な感触を持ちました。
例えば、トラブルが発生した時に要求される解析報告は社内だけで対応することが難しい場合があったり、また何処へ相談すべきか判らなくて難渋しているとの話を伺った事があります。
- このような場合は、遠慮せず気軽に解析ネットへ相談していただきたいと思います。
問題解決のために、シミュレーションによる解析は非常に有効な手段です。
ただ、内容や時期によって全てのご要望に応えることは出来ぬかも知れませんが、関係部署と相談して返事したいと思っています。
- 新設計の開始に際しても、シミュレーションによる解析は非常に有効な手法です。
設計の良否の判断や定量的な検証に役立つとともに、時間を節約し、試作による評価を必要最小限に抑える事が出来ます。
このような時にも、気軽に解析ネットへ相談していただきたいと思います。
- 最後になりますが、県内企業の方々が喜ばれるように微力を尽くしたいと思いますので、諸先生方の絶大なご支援をお願い致します。
そして、ユーザー会員の皆様からのご相談をお待ちしています。